広報 るもい

発行所
留萌市役所
電話（代）270番
編集人
総務課長 寺井利惠
留萌市幸町三丁目
印刷所 金子印刷所
（毎月1回 1日発行）

3月中の人口のうごき

世帯数		9.022世帯
総人口		39.679人
	男	19.983人
	女	19.696人

	出生	死亡	転入	転出
男	32人	11人	30人	38人
女	28人	8人	212人	245人
計	60人	19人	242人	283人

市政にあなたの"ご意見"を

あなたの地区でも市政懇談会を開き市政を理解し市政にあなたの声を反映させましょう。

市政懇談会の申込みは、企画調査係まで。市長、助役、課長が出席します。

"市政に臺所の聲を"と…

農協婦人部の主催で初の催し

市政懇談會だつた盛會

市民のみなさんが日常生活の中で"ああしてほしい""こうしたらよくなると思うんだがなあ"と考えておられることをお伺いするために、市長や市の関係者が現地に出かけるのが"市政懇談会"であります

勿論いろいろの事情で、全部ご期待にそうことは出来ないかも知れませんが、市民のための市政を推し進めるため、出来るだけご意見を多くとり入れて行きたいと考えております。

さてその第一回の催しが去る四月十七日、農協婦人部の主催で開かれましたので、次にその概略をご紹介いたしましょう。

当日は午前十時から幌糠小学校を会場として行われましたが市からは市長が病気で入院中のため、寺井助役以下各課長が出席、農協太田副組合長が司会をいたしました。

最初寺井助役から"市の行政について"一般的な説明のあと古川財政課長の「市の財政事情について」の説明と各課長からその所管事項に関する説明を行つたのち、質疑に入りました

質疑はその内容がいづれも地域の実際生活に直結するものが多く、しかも発言が非常に活発でしたので、答辯する市の関係者も自然真険にならざるを得ない状況でしたが、会場は終始なごやかな雰囲気に包まれ、腹うちわつて市勢の振興をはかろうとする意欲がみち溢れており、昼食ぬきにしていろいろお話しあいをしましたが、話題は仲々つきそうでもなく、一応午後二時に会議を閉じ、引続いて故伊佐津和平氏製作の天然色記録映画「海の留萌」外劇映画を鑑賞して、午後三時有意義な催しを終了いたしました

なお、御要望のありました主なことがらは次の通りでありますが、市では今後充分調査検討を加えご要望に添えるものについては、速かに実現いたすべく作業を進めております

なお、みなさんの声を市政に反映させるために、あなたの地区でも市政懇談会（映画）を計画していただきたいと思います。計画がまとまりましたら市役所総務課企画調査係にお申込み願います。

写眞は盛會だつた
第一回市政懇談會 ―幌糠小―

幌糠地区での要望事項

一、幌糠診療所に医師と助産婦を常駐させていただきたい。―人命に関することなので早急に考慮してもらいたい。

一、蚊、蝿の駆除のため、D、D、Tを無償で配布してもらいたい。

一、デイゼルカーの運行に伴う通学時間の配慮方について―通学に便利になるようダイヤを編成してもらいたい。

一、農村電化（無灯化地区）を促進していただきたい

一、耕運機等に対する償却資産税を免除してもらいたい、

一、市税の納額告知書を一括した通帳式のものにしていただきたい。

一、市税の納期（主に固定資産税）を秋の収穫期にしていただきたい。

廣報"るもい"を保存しよう

広報「るもい」は市政の正しい姿とお知らせを内容として掲載、市民生活の指針にしたいと考えています

市政に疑問を持つたとき市のお知らせを記憶忘れしたときなどのために、広報「るもい」を保存して下さい。

市政の動き

◇選管委員長に塩瀬氏

街道前委員長の辞任により、塩瀬薫氏（前同職務代理者）が選任された。職務代理者には山田耕三氏。

◇検疫港の指定など要請

留萌港が道北唯一の貿易港として名実ともに整えられるように、とかねてからの懸案であつた検疫港の指定と検疫所の設置、植物防疫港の指定などの本年度実現の要請をするため、四月十九日須藤収入役、大和市議長、原田商工会議所会頭など関係者多数が上京。なおこれと関連して、ソ連にしんの留萌港揚げと、これら検疫港の指定などを要請する要望を関係機関に提出することを二十九日の臨時議会で採択。

留萌地區工場適地調査始まる 増毛、小平の三市町村を含めたこの調査は、本年通産省の指定を受けたが、産業の体質改善はまずこれらの基礎調査からと、二十一日第二回の協議会を開き、一応十二カ所の工場用地を候補にあげ、直ちに地耐力調査に着手すると共に、六月末までに調査表をまとめることになつた。

◇工場設置奨勵委員決る 任期満了に伴い、次の五氏を四月一日付で委嘱した。尾田三郎、八幡久栄、森川弘男（以上市議員）東典俊 佐藤政信（以上学識経験者）

◇春の火災予防運動 春の火災危険期を迎え、留萌市消防本部は、四月二十日から十日間、予防運動を展開二十五日には佐藤孫吉氏の一日消防長を行つた。

さらに引続き五月三十一日までを特別警戒月間と決め、市民の注意を喚起している。なお三十三年の元町大火は、五月二十三日でした。

◇市民講座を開講 本年度第一期の市民講座が四月十八日から、公民館で開講されました。

今回は、自動車運転（水曜）料理（金曜）の二講座で、九月まで開講。

なお、料理の希望者はまだ受付けている。

❖ ❖

映画を無料開放

児童福祉週間

五月五日は子供の日。市教委ではこの日を有意義なものにしようと記念行事を開催しました。

子供達には三、五の両日映画を無料で見せたほか"子供達の保護育成の進め方"についてPTAや関係の人々が集まつて、初めての「子供を守る協議会」も有意義に終りました。

▲子供向き映画会
三日 日劇、シネマセンター
五日 銀映、東映
で、いずれも無料
映画は「オーケストラの少女」

なお郡部の小中学生には巡回映画のときに、別な映画を見せます。

▲第一回子供を守る協議会
七日午後一時から公民館で、関係者多数を集め、開きました。

黄色い羽根も一役

＜手記"輪禍"は訴える＞

十六日から 春の交通安全運動

留萌警察署では、五月十六日から二十五日までの十日間、春の全国交通安全運動を展開、市民の交通道徳をたかめ、交通事故の絶滅をはかることになりました

警察庁の調べによると、全国で発生する交通事故は一日平均

件数	五百三十二件
死者	二十六名
負傷者	四百六十九名
損害額	一千万円

という驚くほどの数字が記録されています。

留萌警察署では、この期間中"黄色い羽根"五千本を道行く人に配布（無料）交通道徳を高めるほか、次のことを目標にして市民の協力を望んでいます。

㊀交通法令の周知徹底と尊守励行
○正しい歩行の励行
○安全運転の励行
○道路使用に関する法令の尊守
○道路交通法（案）制定についての広報活動
㊁交通道徳の高揚
○人命尊重観念の普及徹底
○互譲精神の涵養
㊂交通環境の整備など
○道路環境の整備
○児童遊戯場設置の促進

花壇に色どりを

見晴公園の施設を希望者に提供

見晴公園を市民の憩いの場とするため、毎年力を入れていますが、この一つとして花壇を希望者に提供、花壇に色どりを加えることになりました。

これは限られた市の予算では、植える花の種類にも限度がありますので、一般にこの施設を提供、きれいな、めずらしい草花などで色どろうとするものです。

札幌市の大通り公園などは全部この方法ですが、市では希望者があれば積極的に提供しますので申込み下さい。

本年は現在まで次の二カ所から申込みがあり、植付除草、清掃など一切の管理をして戴くことになりましたが、いずれも季節ごとに花を植えかえるとのことです。

○中央円型花壇―拓銀留萌支店（支店長石垣金太郎氏）
○一号花壇―菱和商事株式会社（社長大室重一氏）

鐵道線路の遊びに注意

北国の春も「鉄道から」と、鉄道沿線は黒土をあらわし、春を求めた子供達の遊び場になりがちです。

そのため毎年尊い生命が車禍の犠牲となり、又列車の大事故ともなりかねませんので、沿線の方々は次のことを充分に守つて下さい

△近道と思つて、線路や鉄橋を通ることは危険です。

△子供さんが、線路に出て遊ぶことは危険です。

△線路に石を置いたり、汽車に石を投げつけたりすることは絶対しないように致しましょう。

（旭川鉄道公安室）

手記"輪禍"を斡旋

道警旭川方面本部では、交通事故防止を呼びかける切実な親達の手記"輪禍"を出版しました。

交通事故でわが子を一瞬にして失つた十人の父母が綴るこの手記は、読む人の胸をしめつけ、一日も早く交通禍のない明るい街を望まずにはいられません。

留萌警察署では、一人でも多くの人に読んでいただくようおすすめし、希望者には一冊二十円の実費でおわけしております。

（留萌警察署交通係）

街の話題

◇愛の鐘鳴りわたる 青少年の不良化防止を願つた"愛の鐘"は、一日消防署で行われた入魂式を終え、毎日午前七時に「楽しき農夫」午後九時に「ホーム・スイート・ホーム」のメロディが全市に鳴りわたる。

◇瀬越町"若妻會" 漁村の生活改善に結成され、四月八日二度目の料理講習会を開いたが「家庭の食卓に花が咲いたよう」と大好評

◇野犬狩り好成績に終る 四月二十日で終つたが、二百五十三頭を捕獲。五月には狂犬病予防注射と登録を促進します。

◇留萌地方婦人大會開く

第十二回婦人週間の四月十六日、午前十時から公民館に管内市町村の主婦、職場婦人を多数集め、"生活時間の自主的な設計"を農漁村市街、職場の三部会にわかれて熱心に討議、このあと道学大札幌分校久保田栄正教授の講演「婦人と憲法」を聞いた。

◇教師椎名さんの母親に感謝状 留萌市出身で若くて他界した教師椎名良作さんの母親、城山トエさんはこの程留萌を離れる時、市立図書館に椎名さんの遺作など蔵書約一千冊を寄贈したが、中川図書館長から城山さんに協力者としての感謝状と記念品（オルゴール付置時計）を贈る

なお寄贈の図書は"椎名文庫"と名づけ、市立図書館内にそろえる。

◇自衛隊員の美挙 陸上自衛隊留萌駐屯部隊の三尉、佐伯哲之進さんら十三名の隊員さんは、四月十四日重病看者の手術に、愛の輸血をしたおれに贈られた品物をそつくり市に寄託しましたので、現金五千四百五十円にかえて市福祉事務所に届け、生活困窮家庭の救済資金にあてることになつた